

第 17 回災害支援訓練

実施報告書

広域一般廃棄物事業協同組合

第 17 回災害支援訓練実施報告書 広域一般廃棄物事業協同組合

日 時：平成 30 年 3 月 10 日（土）9：00～12：10

場 所：①集合場所…小田原市諏訪原（トレープラスチック減容施設の隣り）

②派遣場所…広域避難所となる前羽小学校、下中小学校、下曾我小学校、曾我小学校、
下府中小学校、国府津小学校、酒匂小学校、富士見小学校、矢作小学校、豊
川小学校、千代小学校の 11 箇所

参加者：小田原市 6 名、南足柄市 2 名、座間市 5 名、箱根町 2 名、二宮町 1 名、協力会社 2 名、
広域一般廃棄物事業協同組合 39 名

趣 旨：災害時における一般廃棄物災害収集に関する協定を締結している中で、災害が発生した
際にスムーズな対応ができるかどうかを確認し、かつ、災害応急対策に対する相互理解を
深める。

想 定：平成 30 年 3 月 9 日（金）15 時に発生した地震（震度 7）の影響により、小田原市が被災
し、市内の広域避難所設置に伴い広域避難所の仮設トイレのし尿収集と避難所ごみの収集
業務が新たに発生した。通常時の収集体制は道路の不通や渋滞等により収集効率が低下し
ているため、新たに発生した業務に対応できないという想定のもと、災害応急対策を行う。
なお、今回は災害時でも効率よく作業するために中継場所を設置し、し尿の中継訓練を行
う。

内 容：緊急連絡網による連絡訓練、応援要請から参集訓練、広域避難所への派遣訓練、し尿の
中継訓練までを行う。

主な使用機材：

- ①バキューム車 9 台
- ②塵芥車 4 台
- ③仮設トイレ運搬車 2 台
- ④仮設トイレ 8 基
- ⑤仮設テント（3m×3m）1 張
- ⑥音響設備（ポータブルワイヤレスマイク）1 機
- ⑦白板 1 枚
- ⑧非常食セット 32 個
- ⑨地図（道路地図、明細地図）
- ⑩机 1 枚
- ⑪椅子 3 脚

備 考：

タイムテーブル

3月9日（金）

- 15:00 小田原市に震度7の地震発生。
- 15:20 小田原市環境部からの応援要請に基づき、組合員へ応援要請。
- 16:00 組合の支援体制を小田原市に連絡。

3月10日（土）

- 9:00 全派遣班、集合場所に到着（小田原市諏訪原 トレープラスチック減容施設横）
司会進行 加藤副理事長
開会挨拶 鈴木理事長
参加者紹介
訓練行程説明
小田原市から応援要請の内容説明
 - ・市内11箇所の広域避難所設置とそれに伴う仮設トイレ汲取り、ごみ収集及び仮設トイレ設置班編成（2班体制とする。第1班を高橋班長、第2班を勝俣班長が担当）
責任者会議（高橋統括、高橋班長、勝俣班長、小田原衛生担当者）
班別ミーティング
 - ・市内状況説明
 - ・運行計画作成、作業指示
- 9:20 作業チームごとに広域避難所へ移動
- ～11:00 上府中公園にし尿中継所を設置、中継訓練の実施
- 11:00 本部においてし尿中継のデモンストレーション（水を用いる）
- ～11:20
- 11:35 訓練終了式
班別に派遣訓練結果を報告
関係機関挨拶 小田原市環境部 平田環境保護課長
講評 鈴木理事長
- 12:10 訓練場所清掃、後片付け
解散

現地案内図

小田原市諏訪原地内



現地災害対策本部

訓練状況

開 会
理事長挨拶



全体ミーティング



環境部から指令を受ける



訓練状況

班別ミーティング



広域避難所へ向けて
出発



上府中公園にし尿中
継所を設置



訓練状況

避難所ごみは可燃物
と不燃物に分別され
ていると想定し、
別々の塵芥車で収集



タンクに水を入れて、し尿の中継作業
を実演



共催者の小田原市環
境保護課長より挨拶
いただいた



タウンニュース平成30年3月17日号

タウンニュース



2t車から10t車への
移し替え訓練

県西エリアの一般廃棄物処理事業者で組織する広域一般廃棄物事業協同組合（鈴木茂理事長）と小田原市は3月10日、災害支援訓練を実施した。

訓練には約40人の会員のほか、南足柄市や箱根町など近隣市町の担当者も参加。前日午後3時に神奈川県西部で震度7の地震が発生した想定で行われた。広域避難所から出る仮設トイレのし尿とゴミ収集業務を効率良く実施するため、今回は初めて中継地点を設置。運搬時間の短縮や避難

中継地設置で運搬効率化 廃棄物処理事業者が訓練

所環境改善にもつながるといふ。本部を久野の環境事業センター、中継地点を上府中公園に設定。前羽小や矢作小など11カ所に派遣した小型バキューム車で集められたし尿やゴミを、中継地点で大型車へ移し替え、処理場へ運搬するまでの作業手順を確認した。

訓練後、作業員からは「避難所入口付近の道が狭く、災害時に通れるかどうか」「普段は経験できない中継作業。良い経験になった」派遣された車の状況はどう把握するのか」などの意見があがった。

鈴木理事長は「災害時にいかに迅速に動けるかが災害対策の生命線。知識と経験、訓練を積み重ね、災害時に素早く判断ができるよう、日常から心がけて仕事に取り組んで欲しい」と会員らに呼びかけた。

■小田原版／No.1892 2018年（平成30年）3月17日（土）

ポスト広告 平成30年3月30日号

避難所のトイレ問題・ゴミ収集にそなえ 災害支援訓練を実施

3月10日、ゴミ収集などの廃棄物処理事業者が県西部を中心に組織する「広域一般廃棄物事業協同組合」（鈴木茂理事長）と小田原市は災害支援訓練を行った。大地震など災害に伴って開設される避難所から、し尿やごみ収集を安全・迅速に行うための訓練で、県内から14社が参加。17回目となる今回は、道路事情や効率化を考え、市内11カ所の広域避難所から小型バキューム車で収集したし尿を中継地点で大型車に移し、処理センターへ輸送することを想定。作業手順などを確認した。



水を使用した車両間の移送訓練の様子。車両間移送は初めて経験する作業員も。



「避難所のトイレを衛生的に保つには、各所の連携も重要な要素となる。作業にあたる皆さんも知識や経験がいかせるよう、様々なことを想定して訓練を積み重ねていきたい」と鈴木理事長。